

福崎町地域公共交通活性化協議会（兵庫県福崎町）



従来の無償福祉バスを有償化・再編し、再編前と比較し約1.7倍の利用者数増を実現。その後も全国初の市町村運営有償旅客運送における大学バスの活用、隣接自治体との連携コミュニティバス運行による広域ネットワークの形成等の取組を実施。

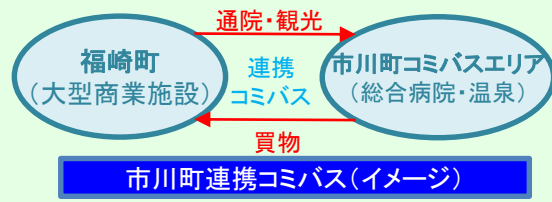
（取組の概要）

1. 多様な主体の実質的参画

- 町内の自治会（全33地区中、27地区（28箇所））で説明会を実施。町の交通施策について周知を図るとともに**住民のニーズを掘り起こし**。
- 隣接自治体、町内の大学、近畿運輸局と公共交通に関する協定を締結するなど、**多様な主体との連携**により各種施策を展開。



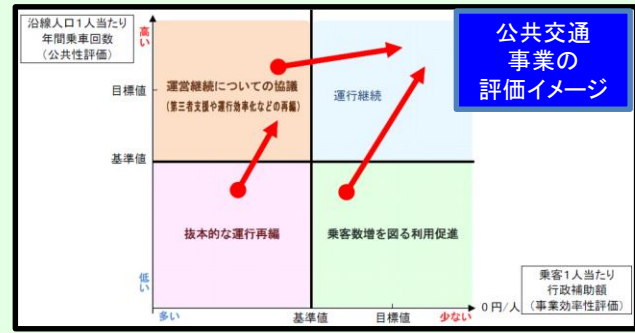
大学バス運行開始式写真



2. 創意工夫

(1) 利用者増に向けた取り組み

- 平成24年、従来の無償福祉バスを有償化・再編。運行形態見直しによる利便性向上やモビリティ・マネジメントに取り組んだ結果、**利用者は再編以降右肩上がり**で推移。平成29年度の利用者は再編前の**約1.7倍に増加**。
- 全体時刻表の配布に加え、各自治会ごとの個別時刻表や利用方法例（モデルケース）の配布を行うことで、**利用者の乗り継ぎ等の不安を軽減し、外出意欲を喚起**。



(2) 地域資源（大学バス）の有効活用による利便性向上

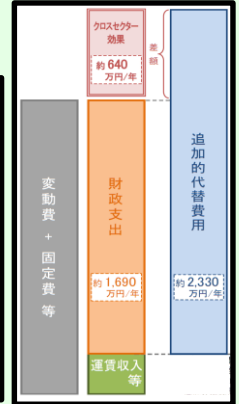
- 大学保有バスという地域資源に着目し、市町村運営有償旅客運送に**全国で初めて大学バスを活用（H30.10～）**。従来のコミュニティバス空白時間帯を補完する形で運行し、車両購入費や運行費用を**町が負担することなく、利便性の向上を実現**。

(3) 隣接自治体との連携

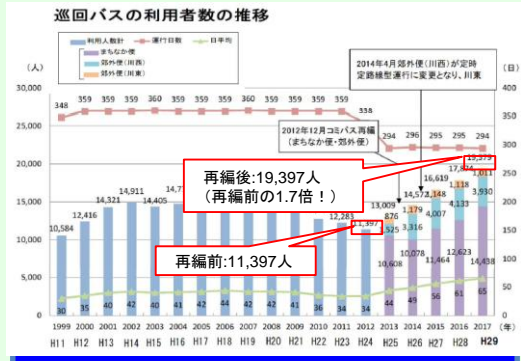
- 隣接自治体（市川町）と連携したコミュニティバスを運行（平成30年10月～）し、福崎町から総合病院や温泉施設への移動需要と、市川町から大型商業施設への移動需要の双方に対応。**広域交通ネットワークを形成**するとともに、町同士の**交流人口増加による両地域の活性化**にも寄与。このほか、姫路市が実施したデマンド型乗合タクシー運行に係る社会実験とも連携するなど、**隣接自治体との更なる連携を模索**。

3. 自立性・継続性

- 立地適正化計画などのまちづくり関連施策との連携・整合を踏まえた上で、**地域公共交通網形成計画**を策定。
- 公共交通に係る**クロスセクター分析**を実施。コミュニティバスを廃止した場合の追加的代替費用を算出し、公共交通に係る支出を単なる赤字補填ではなく「**地域を支える効果的な支出**」と位置づけ。
- 「**公共性**」及び「**経済性**」の2つの視点から公共交通事業を評価。それぞれの観点から評価指標及び基準値を設定し、**運行継続を判断**。



クロスセクター分析



コミュニティバス利用者数の推移